

学生優秀発表賞受賞者：五反田睦美 演題番号 学17

## 臨床検査技師に対する意識調査 —学生の視点から—

五反田 睦美\*

### I. 研究の概要

#### 【目的】

臨床検査技師はかねてより、医療の中で重要な役割を担いつつも社会的な理解が不十分だとされてきたが、大幅な改善は未だ見られない。また、ある研究では、高度なコンピュータ化やAI等の技術進歩により、今後20年で臨床検査技師の業務がなくなる可能性が高いとされている。職業としての存在が完全に失われるとは考えにくいだが、その業務内容に大きな変化が起こるであろうことは想像に難くない。本調査では、このような現状に置かれた臨床検査技師という職業とその教育に対して、学生および現職の臨床検査技師がどのような意識を抱いているか明らかにすることを目的とした。

#### 【期間および方法】

2018年4月25日～5月18日にかけて、臨床検査技師養成校在学学生54名、卒業生および現職の臨床検査技師(以下既卒生と呼ぶ)48名の計102名から回答を得た。

#### 【形式】

Google フォームを利用し、インターネット・SNS 経由でデータ収集を行った。選択形式の設問では、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5

段階評価を用いた。「そう思う」「ややそう思う」を肯定的意見(%)とした。

#### 【結果と考察】

学生・既卒生両者とも、他の職業に比べて臨床検査技師は社会的に認知されているとしたのはごく少数であり(学生11%・既卒生0%)、また過半数は、技術進歩の脅威を感じている(学生63%・既卒生53%)ことが示唆された。そのような状況に置かれながらも、臨床検査技師としての夢や目標を持っている割合は既卒生に比べ学生で高かった(学生56%・既卒生40%)。これに関連して、臨床検査技師として働く意思の強い人ほど夢や目標を持っていることを示す相関がみられたことから、養成校から就職にかけて夢や目標を継続させるためには臨床検査技師としてのキャリアイメージを掴む経験が教育に組み込まれることが望ましいと考えられる。臨床検査技師像に関しては、学生がオールマイティに活躍する技師を理想としている(学生50%・既卒生31%)のに対して、既卒生では専門に特化することが理想的だとする声が強かった(学生46%・既卒生58%)。加えて、検査学生に対しては臨床検査技師が教育を行うべきだとする声は既卒生に強く(学生48%・既卒生62%)、これらの点で学生と既卒生で意識に乖離が見られた。

将来臨床検査技師に必要なと考えられる資質について尋ねた自由回答設問では、検査に関す

\*東京医科歯科大学医学部保健衛生学科検査技術学専攻 150102ts@tmd.ac.jp

る専門知識は当然ながら、広い探求心や積極性をもって業務に取り組むこと(28名)が望まれていた。また、正確で精密な手技(15名)はもちろんのこと、的確なデータ分析(9名)やコミュニケーション能力(14名)を重要視する声が多くの方から上がった。今後、臨床検査技師は単に検査結果を提供するだけでなく、データを解釈し、その結果を臨床検査技師としての立場から説明すること、より良い検査のため研究し続けることが必要だという意識を持っていることが判明した。

## II. 受賞の感想

この度は、第13回日本臨床検査学教育学会学術大会において学生優秀発表賞を頂き大変光栄に思っております。本調査は私が臨床検査技師養成校の学生として生活する中で生まれた疑問に対して、同じ学生や現職の臨床検査技師として活躍する方のご意見を伺いたいという思いからスタートしました。データが集まるにつれ本調査の結果を何らかの形で還元したいと強く感じておりましたが、

発表を通じて実現することができました。短い期間でしたが調査にご協力いただきました回答者の皆様、本学会での発表に際しご指導を賜りました窪田哲朗教授、沢辺元司教授、戸塚実教授、様々な形で協力いただきました諸先輩方、このような素晴らしい経験を与えてくださったすべての方にこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

## III. 将来への抱負

今回は、臨床検査技師が抱える課題とそれに対する意識を垣間見ることができ、非常に有意義な調査だったのではないかと考えております。しかしながら、設問の構成や質、調査対象の設定等、アンケート全体の妥当性や信頼度に関して大幅な改善の余地があることを痛感いたしました。今回の調査から得た知見を今後に生かし、様々な角度から改めて意識調査を行い、臨床検査学教育をより魅力的にするヒントを集めていきたいと考えております。